ま　え　が　き

南アフリカでアパルトヘイト体制が終焉し，アフリカ民族会議（ANC）政権が成立してから20年近くが経過しようとしている。民主化の時点で南アフリカは，アパルトヘイト体制下で形成された人種間の格差や貧困，社会的排除といった深刻な問題を抱えていた。こういった「アパルトヘイトの遺産」というべき問題に対して，マンデラからムベキ，そしてズマへと２度の指導者交代を経て長期安定政権となりつつあるANC政権がどのような政策的取り組みを行ってきたのか，またそれにより南アフリカの経済社会構造がどのように変容しつつあるのかを，貿易，投資，農業，保健，移民，都市，地方政府改革などのさまざまな部門において具体的に検証することが本書でわれわれが試みたことである。その際われわれは，アパルトヘイト体制のもとでの国際的な孤立状況から抜け出した南アフリカが急速にグローバル経済に再統合されたことが，民主化後の南アフリカの政策やそれによる経済や社会の変容・無変容に大きな影響を及ぼしたという基本的認識を出発点とした。そのうえで，民主化後の政策の内容やその変化を国内要因のみならず，グローバルな政治的，経済的文脈との関連のなかで理解することに留意した。

本書は2010年度から２年間にわたってアジア経済研究所において実施した共同研究会「ポスト移行期南アフリカの社会変容」の最終成果である。研究会の実施にあたっては，川島真氏（東京大学大学院准教授），北川勝彦氏（関西大学教授），宮内洋平氏（立教大学アジア地域研究所特任研究員，元在南アフリカ共和国日本国大使館専門調査員），Scarlett Cornelissen 氏（Professor, Stellenbosch University），Jeremy Seekings 氏（Professor, University of Cape Town），Hussein Solomon 氏（Professor, University of Free State）の各氏に講師としてご報告をいただいた。加えて，遠藤貢氏（東京大学大学院教授），黒須仁美氏

（元大阪大学大学院），坂田有弥氏（在ジンバブウェ日本国大使館専門調査員），津山直子氏（関西大学客員教授，「動く→動かす」代表），丸山淳子氏（津田塾大学講師），峯陽一氏（同志社大学大学院教授），望月克哉氏（東洋英和女学院大学教授），森川純氏（酪農学園大学教授），工藤友哉氏，鈴木早苗氏，津田みわ氏，平野克己氏，福西隆弘氏（以上，アジア経済研究所）には研究会の議論にご参加いただいたり，さまざまな機会にアドバイスや情報提供をいただいた。Hussein Solomon 氏と Scarlett Cornelissen 氏の講師招聘は栗本英世氏（大阪大学大学院教授）と児玉谷史朗氏（一橋大学大学院教授）のご協力により実現したものである。Jeremy Seekings 氏の訪日に際しては，北川勝彦氏，峯陽一氏，アジア経済研究所開発スクール（IDEAS）関係者にお世話になった。また，厳しくも建設的なコメントをくださった匿名の査読者，原稿を子細にチェックしてくださったアジア経済研究所出版企画編集課スタッフのおかげで，当初の原稿で論理が甘かったり文意が不明瞭だった点はかなり改善されたと思う。この場を借りて深く感謝申し上げる。

本書の記述の多くは，各執筆者による現地調査に基づいている。現地調査に際しては，数多くの方々にインタビューや情報提供などの面でご協力いただいた。その一人一人のお名前をすべて挙げることは紙幅の関係から不可能だが，五月雨式に現地を訪れるわれわれにたびたびご対応くださった長田雅子氏（プレトリア大学日本研究センター・プログラム・ディレクター）と高崎早和香氏（日本貿易振興機構，元ヨハネスブルグ事務所員）にとくに御礼申し上げる。むろん，本書にあり得べき誤りはすべて編者および各執筆者の責任である。

アフリカ大陸随一の経済大国である南アフリカは，2011年にはブラジル，ロシア，インド，中国とともに BRICS の一員に加わるなど，新興国としての存在感を増してきている。2012年にはンコサザナ・ドラミニ - ズマ（Nkosazana Dlamini-Zuma）内相がアフリカ連合委員長に選出されるなど，外交面でのリーダーシップをとることについてもますます積極的な姿勢をみせている。他方で，国内に目を向ければ，本書が編集段階に入った2012年 8 月，マ

リカナ鉱山において賃上げを求めてストライキを行った労働者に警察が発砲し，多数の死傷者を出す事件が発生した。同事件は南アフリカ社会に大きな打撃をもたらし，改めて南アフリカが直面する課題の深刻さを浮き彫りにした。ストライキは別の鉱山，さらにはトラック運転手や農場労働者などにも飛び火し，経済成長率も押し下げられ，2012年後半の南アフリカは不穏な空気に包まれた。しかし，この間の政治は2012年12月のANC党大会における指導部選出に向けた派閥間の争いが中心となり，マリカナ事件やその後の社会不安への政策的対応についての議論は深まらなかった。党首に再選されたズマが取り組むべき課題は，一期目に比べいっそう難度の高いものとなっているといえよう。民主化後に誕生したANC政権のもとで，南アフリカの経済社会構造がどのように変容しつつあるのか，何が課題として残されているのかについての理解を深めるために本書が一助となれば幸いである。

2012年12月

編　　者